

「本気でチャレンジ みんなで笑顔」

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果から

4月に実施した全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。今年度の「教科に関する調査」は、国語・算数の2教科で実施されました。「質問紙調査」は、生活習慣や学習状況などに関する質問があり、オンラインで回答しました。

I 教科に関する調査結果

国語・算数の正答率を県平均、全国平均と比較し、設問による本校児童の得意不得意を分析しました。下記の報告はあくまでも平均値をもとにした評価です。お子さんの結果はそれぞれ個票で御確認ください。

(1) 【国語】

※表の見方 ◎…正答率が平均を上回っている ○…正答率が平均とほぼ同等 △…正答率が平均を下回っている

	教科全体	言葉の特徴や使い方等	情報の扱い方	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
全国	◎	◎	◎	◎	◎	◎
県	◎	◎	◎	◎	◎	◎

【強み】

- ①**経験に基づいた記述**: 文章を読んで自分の経験と結び付けて記述する力が育っています。書かれている内容を客観的な情報として受け取るだけでなく、自分の生活や過去の体験に照らし合わせて捉え直す読み方ができています。
- ②**伝え方の工夫に対する理解**: 動画というマルチメディア情報（調査の中では文章で表記されています）を分析し、表現の意図や工夫を読み取る力に長けています。

【課題】

- ①**語彙力と情報の整理**: 語句の適切な漢字への書き直しや、複数の情報から必要な内容を抜き出して整理して書く力に課題が見られます。
- ②**表現における細かな工夫**: どの技法がどのような効果を狙って使われているかを分析する詳細な読解が苦手な傾向にあります。文章における言葉の細部へのこだわりや配慮にやや欠ける傾向にあります。

【今後の支援・方向性】

- ・日常的な漢字練習に加え、文脈の中で適切な語彙を選択する学習を強化します。
- ・情報を整理し、論理的に構成して書く指導（要約や比較など）を重点的にを行います。



(2) 【算数】

表の見方 ◎…正答率が平均を上回っている ○…正答率が平均とほぼ同等 △…正答率が平均を下回っている

	教科全体	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
全国	◎	◎	◎	◎	◎	△
県	◎	◎	◎	◎	◎	○

【強み】

- ①**数と計算の基礎**: 数の並び替えや概数における基礎的な知識・技能が備わっています。
- ②**図形や体積の理解**: 直方体の体積を求める基礎的な知識・技能が定着しています。

【課題】

- ①**割合**: 割合の概念を視覚的な図と結び付けることに苦手さが見られました。



②**多角的なデータの活用**：二次元の表から条件に合う数値を特定する応用的問題や、直方体の大きさによる送料の違いを問う問題で正答率が低くなる傾向にありました。複数の条件や情報を組み合わせて判断する場面での知識の活用に課題があります。

【今後の支援・方向性】

- ・割合などの抽象的な概念については、具体物や図を多用し、量感を養う指導を重視します。
- ・複雑な表やグラフを読み取る時間を意識的に設けると共に、日常生活においても情報を処理するスキルの向上を図る機会を設けます。



2 質問紙から見える調査結果

学習状況調査からは、子供たちの生活の基盤が安定している様子がうかがえます。

【強み】

- ①**高い自己肯定感**：自己肯定感や心理的安全性等に関する数値が高い傾向にありました。自分に自信をもち、安心して学校生活を送れていることがうかがえます。
- ②**ICTの活用**：タブレット端末などを活用した学びが日常化しており、タブレット操作の向上に留まらず、国語におけるメディア情報の意図や工夫を読み解く力にも繋がっていると言えます。
- ③**読書習慣**：読書等の意識も高く、本に親しむ習慣が身に付いていることがうかがえます。

【課題】

- ①**生活習慣の課題**：生活習慣に関する数値が他の項目に比べて低く、特に就寝時刻や朝食、メディア利用時間など、学びの基盤となる生活習慣に課題が見られます。
- ②**社会性**：主に学校生活における他者との関わりや、社会的な行動のあり方を測る領域では、数値自体は平均的ではありますが、他の項目と比較して伸びる余地があります。

【今後の支援・方向性】

- ・**家庭との連携**：規則正しい生活習慣が学力に与える影響は大きいと言われています。学期はじめの元気アップカードを活用し、メディア利用や生活リズムについて、改善の方法を親子で話し合うのもよい機会となります。御家庭でぜひ話題にしてください。
- ・**他者との関わりにおける自己有用感の育成**：ICTをこれまで以上に活用し、発表機会を増やしたり、より良い考えを構成したりして、自分の学びが他者に貢献していると実感できる取り組みを継続し、自己のより良い行動に繋がるようにしていきます。

調査の全体を通して、横地小の児童は素直で意欲的であり、基礎的な力が着実に育っていることが分かりました。少ない人数だからこそ実現できる学習スタイルや、個別の支援が実を結んでいることも、調査から見えてきました。学校では、今回の結果を真摯に受け止め、個にとっての最適な学びを充実させていけるよう、努めていきます。御家庭におきましても、お子様の良いところを褒め、心を支える励ましを引き続きよろしくお願いいたします。

